

6. その他河川整備を総合的に行うために留意すべき事項

6.1 関係機関、地域住民等との連携

六角川流域は、二度にわたる激特事業の実施により、近年河川整備の着実な進捗を見せている一方、気候変動による洪水外力の増大や高齢化の進行等、洪水に対する災害リスクは依然として高く、一旦氾濫が生じた場合は甚大な被害を受けることが想定されます。

また、排水ポンプ場の整備により、それまで頻発していた浸水被害が軽減されることで土地利用の高度化が進むことが考えられますが、整備水準以上の洪水が発生した場合は、新たな浸水被害が生じることが想定されます。

このため、逃げ遅れゼロと社会経済被害の最小化を目的として、河川における治水対策と併せて、これまで取り組んでいるソフト対策の更なる充実を図るとともに、ため池等の既存施設の有効活用、クリークを活用した雨水貯留容量の確保、雨水貯留施設、透水性舗装の整備、支川・水路における氾濫抑制対策等の取組、家屋の嵩上げ、都市計画マスタープランや立地適正化計画等の「まちづくり」による水害に強い地域への誘導など、流域の特性に合わせた総合的な治水対策の実施に向け、県や市町など関係機関及び地域住民と連携した取り組みを実施します。

6.2 コミュニティの形成への支援活動

近年の異常な集中豪雨が頻発する気象状況のもとでは、想定を上回る洪水が発生する可能性も高く、災害時の安全かつ迅速な避難が重要です。一方、今後の高齢化社会においては、災害時に支援を必要とする方々が増加することは必至であり、これらの方々を支援するためには、近隣に居住する方々がお互い協力して、助け合う地域社会を再構築し、地域の防災力を高めていく必要があると考えます。

このため、地域における防災力向上の取組や河川環境の保全の支援等、六角川を活用した地域活動をとおして、地域の身近なコミュニティの形成、さらには流域全体に広がる大きなコミュニティの形成につながるような地域防災リーダーの育成や自主防災組織の強化・拡充に資するための出前講座など支援活動等を行っていきます。



写真 6.2.1
住民によるマイ防災マップの作成



写真 6.2.2
マイ防災マップを活用した避難訓練

6. その他河川整備を総合的に行うために留意すべき事項

6.3 河川情報や共有、環境学習支援等

6.3 河川情報や共有、環境学習支援等

六角川特有の自然環境と、個性を生かした河川整備を進めるため、ホームページ・広報誌やテレビ、新聞などメディアを利用して広く情報提供し、住民との合意形成に向けた情報の共有化、意見交換の場づくりに取り組むなど、関係機関や地域住民とのコミュニケーションを推進します。

さらに、将来の地域を担う子供達へ水防災や環境についての学習や普及啓発を推進させるため、地域と連携した水防災教育、水生生物調査、イベント環境学習等、水辺での自然体験活動等の機会の提供や指導者育成の支援を行っていきます。



写真 6.3.1 地域と連携した水防災教育



写真 6.3.2 子供を対象とした環境学習

6.4 流域全体を視野に入れた取り組みにあたって

六角川流域は、その6割が有明海の潮汐の影響を受ける低平地であることから、六角川の河川整備にあたっては流域全体を視野に入れた取り組みが、特に重要な課題と言えます。

治水の視点では、我が国最大の干満差を有する有明海の潮位上昇は、六角川流域の低平地からの排水能力と密接な関係にあることから、外水対策に加えて内水域の浸水被害を軽減するための戦略的対策が必須と言えます。例えば、六角川の沿川では外水氾濫と内水氾濫が同時に発生することから、河川での対策のみならず、流域全体で浸水被害軽減に向けた取り組みを進めていく必要があります。また、地域の氾濫特性を踏まえたきめ細やかな防災ハザードマップを示すことが、住民目線での避難方法の習得、土地開発に伴うリスクコミュニケーション等にとって重要な情報となります。

利水の視点では、白石平野は嘉瀬川ダムからの補給によって地下水依存度は解消されつつあるものの、近年の気候変動による影響で多雨の年と小雨の年の差が大きくなっていることから渇水リスクは高まっています。そのため佐賀平野に縦横無尽に張り巡らせた水路網の管理水面を安定的な貯留機能として活用するには治水・利水の両面から地域独自のルール化など課題が残されています。また、白石平野の一部では地下水上昇に伴う農業への影響も懸念されており、地下水管理の適正化は治水・利水に関する総合行政として取り組むべき重要テーマでもあります。

環境の視点では、現行の河川環境に係わる調査に加えて気候変動を視野に入れた戦略的モニタリングが重要になります。特に有明海の潮位上昇が感潮域や低平地の自然環境や生態系に及ぼす影響については、治水、利水も視野に入れた長期的な環境モニタリングが必要となります。

このように、六角川流域の河川整備に係る課題は複雑であることから、佐賀低平地特有の水システムを構築し、リスク管理まで対象にいれつつ経済的合理性も加味した低平地独自の水管理が重要となります。低平地独自の総合的水管理を進めていくため、関係機関が情報を共有し、相互の連携によって課題を解決していくための枠組みの構築に取り組んでいきます。